

シューブラー・コラール集  
Schübler-Choräle  
BWV 645-650

1748年? 年出版。表紙:

2つの手鍵盤とペダルを備えたオルガンで、前奏曲として演奏するためのさまざまな種類の6つのコラール。ボーランド國王兼ザクセン選帝侯宫廷作曲家、カペルマイスター兼音楽監督ヨハン・ゼバスティアン・バッハ作。ヨハン・ガエルク・シューブラーにより、チューニングの義、ヴェラにて出版。ライツィヒのカペルマイスターであるバッハ氏、ペルリとハレの彼の子息たち、およびツェラの出版社から入手可能。

## 起 源

6曲中5曲はライツィヒ時代のカンタータのアリアを編曲したもので、うち3曲はコラール・カンタータである。オリジナルの調性はそのままだが、通奏低音部の調は用いられず(絃楽が使われていたためか?)。その利害のアリアリゼーションもない。また649と650の弦のアーティキュレーションも採用されていない。BWV 650を除き、表題曲のものではなく、コラールの1行目となっている。BWV 646のみカンタータバージョンではないが、その理由は次の2通りに説明できるだろう。すなわち、オルガニストイディオムをみると、本曲は何らかの理由でともとオルガン曲として書かれたか曲同様、この曲も現存しないカンタータの旋律を使用して書かれたという可能性である。

誰が出版用の箋写譜を準備したかは不明である。1747~1750年の間に作曲者が出版譜にいくつかの修正を加えているものの、BWV 645, 647, 650の自筆譜がないため、な細かいについて疑問が残る(KB pp. 130-4, 155)。《クラヴィニア練習曲集第3部》と譜は多数あるが、これらは直接または間接的に初版印刷譜に由来していると思われるためにこの形のコラールがつくられたことは、(ほぼ疑いようがない)。

ウォルター・エメリーの指摘は、荒っぽいか重要な問題を提起している。

「(シューブラー・コラール集)の編曲はオリジナルほどの強い印象は与えず、なぜこれを出版したのか、理解するのは難しい」(Abraham 1986 p. 677)

これらのコラールは、BWV 528.1のようなバッハの他の編曲作品よりも、はるかに忠実である。作曲者自身の修正も、カンタータと初版のいくつかの相違点(注:スラーと同20小節の前打音、BWV 647の縮約された持続音、BWV 650のバッハがこの「鶯仙」をつかった、あるいは認めたという記述にはなっていない)、それなりに有能な弟子の誰かによって、絃楽から書き起こされたものかもしれない。ハレの仕事に関連して、W.E.バッハ、または依頼を受けた誰かが、カンタ

## ●読者対象

研究者・学生(音楽学、宗教学・キリスト教系、人文系)、オルガニスト・鍵盤楽器奏者、愛好家(リスナー)、音楽大学、図書館、教会、奏楽者など

切り取り線

ご希望のお客様は、下記よりご確認ください。

## J. S. バッハのオルガン音楽 全曲解説

同時アクセス数1(本体価): 51,480円

同時アクセス数2(本体価): 77,220円

同時アクセス数3(本体価): 102,960円

ProductID: KP00116929

販売対象機関: すべての機関

紀伊国屋書店 デジタル情報営業部 Mail: ict\_ebook@kinokuniya.co.jp



J.S. バッハのすべてのパイプオルガン曲(約310曲)を、  
1曲ずつ、個別に解説!

一般社団法人  
日本オルガニスト協会  
推薦

# J. S. バッハの オルガン音楽 全曲解説

ピーター・ウィリアムズ(元・デューク大学) [著]

廣野嗣雄(東京藝術大学名誉教授)・馬淵久夫(くらしき作陽大学名誉教授) [監訳]



♪作品番号(BWV)や曲名から引くことができ、年代、様式、真正性、贊美歌・礼拝・式文との関連、曲の構造、モチーフやテーマの解釈、バロック時代前後の作曲家・作品との関係などが、現存資料や異稿に基づいて詳細に考察されている

♪コラール作品では、すべてのコラールの旋律と口語訳で歌詞(第1節)を掲載

菊判(上製) / 612頁 定価 13,200円(本体 12,000円)  
978-4-254-68028-7 C3073

電子版の価格は最終ページをご覧ください。

## ■鈴木雅明氏 推薦! (バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)音楽監督)

長年にわたり私が繰り返し参照してきたP. ウィリアムズの名著がついに翻訳されたと聞いて、これほどうれしいことはありません。

本書は、バッハのオルガン全作品を網羅するだけでなく、チェンバロや声楽作品との比較、影響を受けた作曲家の考察、さらには演奏上の問題にまで踏み込んだ、驚異的な広がりと深さを持つ圧倒的な研究書です。著者の膨大な知識とつくることのない探究心が生み出したこの一冊は、オルガニストやバッハ愛好家のみならず、すべての音楽ファンにとって必携の書と言えるでしょう。

#### ■「刊行にあたって」より抜粋

本書は、不朽の世界的名著 “The Organ Music of J. S. Bach” I & II (Cambridge University Press, 1980) の改訂版 (Second edition, 2003) の全訳である。…(中略)…バッハの作品であることが不確実な作品を含め、全オルガン作品を扱っていること、そして全コラールの旋律、口語訳で歌詞の第1節を掲載している研究書は未だに他にない。また自筆譜、筆写譜その他の基礎データの提示、作品に関連するおびただしい研究書や論文の引用、オルガン作品はもとより、チェンバロ、室内楽、オーケストラ作品、カンタータや受難曲そのほか数多くの他作品との比較など、演奏家、研究者に限らず幅広い読者に向けて客観的情報を提供し、読むことを通して考えることを促してくれる内容が、本書の名著としての価値を高めている。時に独断と思える箇所もあるが、読者は、著者の尽きることのないバッハへの愛がバックグラウンドにあることを感じられるであろう。

## ○目次

第I部 自由作品

- |     |              |             |
|-----|--------------|-------------|
| 第1章 | 教会カンタータ131より | BWV 131a    |
| 第2章 | 6つのソナタ       | BWV 525-530 |
| 第3章 | 前奏曲とフーガ      | BWV 531-552 |
| 第4章 | 8つの小前奏曲とフーガ  | BWV 553-560 |
| 第5章 | その他の個別の作品    | BWV 561-591 |
| 第6章 | 協奏曲など        | BWV 592-596 |

## 第二部 コラール作品

- 第7章 オルガン小曲集 BWV 599-644  
第8章 シュープラー・コラール集 BWV 645-650  
第9章 旧称「18のコラール」(いわゆるライプツィヒ・コラールとそのヴァイマル版) BWV 651-668  
第10章 クラヴィーア練習曲集第3部のオルガン・コラール BWV 669-689  
第11章 旧称「キルンベルガー・コレクション」のオルガン・コラール BWV 690-713  
第12章 種々のオルガン・コラール BWV 714-765  
第13章 コラール変奏曲(パルティータ) BWV 766-771  
第14章 4つのデュエット(クラヴィーア練習曲集第3部より) BWV 802-805  
第15章 種々の小品 BWV 943---1085  
第16章 ノイマイスター・コラール集のオルガン・コラール BWV 1090-1120  
第17章 さらなる作品(一部は出所不明)  
〔監訳者注記〕 BWV 1128

付録

年表

用語解説

文献

自由作品索引

コラール作品索引

## その他の作

監訳者

- 廣野 嗣雄 東京藝術大学名誉教授  
馬淵 久夫 くらしき作陽大学名誉教授

## ■訳者（五十音順）

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 浅井 寛子 | カトリック麹町聖イグナチオ教会オルガニスト            |
| 大岩みどり | 京都大学大学院博士前期課程、日本基督教団玉出教会オルガニスト   |
| 田川 真由 | 国際基督教大学大学院博士後期課程                 |
| 徳田 佑子 | 青山学院大学、日本バプテスト同盟搜真バプテスト教会オルガニスト  |
| 中川 紫音 | 慶應義塾横浜初等部音楽科教諭、日本基督教団聖ヶ丘教会オルガニスト |
| 早坂 牧子 | 東京音楽大学准教授                        |
| 原田 真侑 | 所沢ミューズ第4代ホールオルガニスト               |
| 廣野 嗣雄 | 東京藝術大学名誉教授                       |
| 美野 裕美 | 聖パウロ・インターナショナル・ルーテル教会オルガニスト      |

## ● 組見本

●組見本

26 BWV 525-530 6つの

譜例 16 b. 8

2. BWV 604 277

譜例 17 b. 3

Peters 1 (transposed from D minor)

P 1115 (transposed from D minor)

P 271

初期バージョン 5 小節目 ソナタ・バージョンでは 5 + 6  
21 小節目 22 + 23 小節となる。  
28 小節目 30 + 31 小節となる(前半部分)。

このように「最終バージョン」は 2 小節のフレーズ構造をさす  
加えられたクーレ・ド・ティエルス coulée de tierce は、旋律にい  
効果は、結果的には今のはうがより鮮やかである。しかし、この  
能力が失われている。31 小節からコーダのストレットまで、各声  
ているが、「初期バージョン」では B2 は B1 の正確なくなり返しで  
とくに二短調という(真正な?)調性で、非常に高い音域まで使わ  
はよくみられるものよりも、全体として両手の距離が近い。

第3楽章

I	1-28	ペダルでの主題を伴う完全な提示部(主題 A)。
II	28-36	3連符で展開するエピソード。
	36-51	平行長調での主題と応答。A にあるのと同じ対位法。
I	51-60	3連符で展開するエピソード。A からのもの(16 小節)。
	60-87	提示部。ペダルに主題、手鍵盤声部が交換されてい る。
	87-97	5 小節からなるセクション(= 28 小節目以降のエピ ソード)。

左側の列が示すように、この形は 3 部構成とみることができ、外

BWV 604

Gelobet seist du, Jesu Christ (Orgelbüchlein)

イエス・キリストよ、讃美を受けてください(オルガン小曲集)

その他の筆写譜: J. T. クレーブス, J. G. ヴァルター(BWV 722とともに), J. C. オーライ, J. P. キルンペルガー, J. G. ミューテル、および J. C. キッタルによる、または軽由したもの。

二段階。P283 に「2つの鍵盤とペダルで à 2 Clav. & Ped.」と見出しあり(クレーブスの筆写譜にはなし)。

歌詞: 2~7 節のテキストは、ルターがノートガのクリスマスの続唱「今ぞともに感謝したてまつらん Grates nunc omnes reddamus」の低地ドイツ語バージョンから一部を取り入れ、クリスマスの主要なコラールとなった。

Gelobet seist du, Jesu Christ, イエス・キリストよ、讃美を受けてください,  
dass du Mensch geboren bist. あなたは人としてお生まれになりました  
von einer Jungfrau, das ist wahr; 乙女から、それは真のできごとだった。  
des freuet sich der Engelschar. 天使の群れは歡喜する。  
Kyrieleis. キリエライス

さらに 6 つの節は世界の光である御子が「私たちを悲しみの谷から導いてくださる」ことに関係している。

旋律: 旋律は 1524 年に歌詞とともに出版され、最終的にはグレゴリオ聖歌に由来する(Terry 1921 p. 169)。譜例 113 を参照のこと。コラール BWV 314 のほか、BWV 697, 722, 722a, 723, カンタータ第 64 番(1723 年など)や第 91 番(1724 年)、そしてクリスマス・オラトリオ(クリスマスの第 1 日および第 3 日)に登場する。

譜例 113  
BWV 314

ペダルのモチーフが目立つが、伴奏は他の曲よりもモチーフ的な要素が少なく、バスのラインとしてのペダルは必要ない。BWV 605 と同様に、分散和音が連續的な環境をつくりだしているが、ここでは「柔軟な」ミクソリディア調に傾き、どちらのコラールにも 3 度の音をもたない主要な拍がいくつかある。また、旋律は、たとえば、1~2 小節目のアルト(第 2 行の上昇をパラフレーズ)とペダル(その下降)にみられるように、隠れた暗示を与える。そしてまた、ペダルのモチーフは典型的な交互の足の使いかたで、上昇する内声部に「応答」し、上昇する時に下降する(最後から 2 小節目——P 283 の参考の結果か?)。ペダルのモチーフの配置は反復的でも予測可能でもないが、最後の変格終止を含め BWV 697 と同様の構成で最後のカデンツ